



中村俊定文庫  
文庫 18  
988





江戸俳諧評記  
見立巻大評



他社評判記  
見立燕人評

風反三子孫をまゝくはた又創の師人を自わ  
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
てふまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
こゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
るゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
おほひのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

梅乃ちゝゝ  
ほちゝゝゝ

ちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ









せいまいふしうしうせいしうふしうのふしうふしう  
ふしうふしうふしうふしうふしうふしうふしう  
ふしうふしうふしうふしうふしうふしうふしう

尾上菊之市

つうふのはねからぬれしやうはとも一晩寝る  
るはうそととあそとあそと時代もれよういそ  
のふうふうふうふうふうふうふうふうふう

うへにひりて横のおのひ入る——うろろの給を  
おぼやとあるゆゑあるにあらざるや

中村福也

事跡を述べておいて、もうけるのであつた。又  
その解は、さういふに、此人をうつゝは、  
手もつかぬやうなれと、梅の葉は、  
花が咲くやう

五  
東  
休  
之  
心

此 仁心者も 親の心も 誰れ人き こそは ても 道  
 こそ 心も 必し 親の心め ね。 こそ 心も せ  
 うん 心のは こそ



柳白井丁出  
二尾上梅章

古人の仕方をも 今人の時代を 往くも 返るも  
 ひもろくはらうと 志す 蘇我の 子に なるべし 今も なるべし  
 世とは 人の 大なる 志を 成し けむる 志を 成し けむる

西遊記  
坂東屋之市

とよまのうめてそくしきもいこふに  
はるけきは都てあまのやぶをわたり  
はるけきは都てあまのやぶをわたり  
をけけるもいこふに

市川中宗次  
片岡我堂

此の人と對する仇共々との別けは善の爲め下  
の行はくは評と名をのそひて之を以て後世に  
りてる也

二五 邪枉付

市川幸市

花やうきもあきよくてあつてもうとれたけ  
けぬ格もあつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつてもあつても  
あつてもあつてもあつてもあつてもあつても



乃雅尾由抄  
表の如く

時やとて候と寄寄候と二つの仕つけもなめてい  
ひ居るつゝるれと云ふ事うゝと云ふと云ふは  
つゝぬおふゝ

さう候とて人の中にては沙人衆もなけられ  
成りて候とてさう候とて







